

誰もが利用しやすい建築物の整備ポイント

ユニバーサルデザインによる建築物の整備では、すべての人にとって安全・簡単・快適に利用できるという視点で計画を行っていく必要があります。

以下の整備ポイントを参考に、利用者の視点に立った整備を進めましょう。

階段 ▶▶ 11 ページ

転落等の危険性の高い場所であるため、手すりの設置、段の先端のわかりやすさ、すべりにくさなど安全面に配慮する。

エレベーター ▶▶ 12 ページ

出入口やロビーから見えやすい位置に設置し、すべての人が使いやすいものにする。

廊下等 ▶▶ 9・10 ページ

建物の用途、規模、利用状況などに応じた十分な幅を確保し、廊下途中での幅の変化を避け、設備機器等の突出物は設けない。

出入口 ▶▶ 9・10 ページ

車いすでの利用を考慮し必要な幅を確保するとともに、すべての人に開閉しやすい扉を設置する。

授乳室 ▶▶ 17 ページ

授乳やおむつ交換のできる場所を設け、男性の利用も考慮し、女性のプライバシーの確保にも配慮する。

トイレ ▶▶ 13~15 ページ

多様な利用者ニーズに対応できるようにトイレの配置を計画し、スペースを効率的・効果的に確保し、必要な設備を使いやすい位置に設置する。

駐車場 ▶▶ 7・8 ページ

駐車場は段差をなくし、車いす使用者用駐車スペースは玄関近くで利用しやすい位置にする。

敷地内通路(アプローチ) ▶▶ 7・8 ページ

建物の出入口に通じる通路は段差をなくすか緩やかな勾配のスロープにし、すべての人が安全に同じ経路で移動できるようにする。

みんなに
優しい整備が
うれしいね!

